

歯学部創立30周年 特集

鹿児島大学歯学部創立30周年を記念して

歯学部長 植村正憲

昭和52(1977)年10月1日に鹿児島大学歯学部は、2講座(定員教授2名)で設置され、翌昭和53(1978)年に5講座体制が整い、第1期生80名が入学致しました。以来昨年平成19年(2007)度まで総計1,528名の卒業生を輩出することが出来ました。この様に立派に南九州の歯科医学の拠点となりましたが、これらは、大学関係者は勿論ながら、創立以前から極めて多数の郷土の皆様を支えられた結果で、誠に感謝申し上げる次第です。創立にご尽力を賜った方々にご苦勞を偲ぶ意味で少し創立時を振り返り、年表にまとめてみます。(鹿児島大学30年史、50年史からの抜粋、詳細は同誌を参照、敬称略)

鹿児島大学への歯学部設立の最初の公式な動きは、昭和39年(1964)11月医学部教授会の「現地の亀ヶ原へ移転決議(旧七高跡から)、および移転に伴い薬学部・歯学部設置構想」に始まる様です。昭和44年 医学部教授会(5/20)、評議会(6/12):歯学部および同附属病院を要求決定。昭和46年度頃から本格的に歯学部設置運動が始まる(医学部長、川路清高教授が同窓の大阪大学歯学部の川村洋二郎教授に相談、大学長の中村末男に設置促進を要請)。昭和47年9月 鹿児島、宮崎、沖縄三県の歯科医師会を中心に「鹿児島大学歯学部設置期成同盟会」(会長:金丸三郎県知事)運動方針を「南九州地区(宮崎・沖縄を含む)の深刻な歯科医師不足の解消をはかり、地区住民の健康保持及び増進のため鹿児島大学に歯学部が早急に設置されるよう適時適切な運動を強力に展開する」と定めた。昭和49年度予算 歯学部創設調査費5,138千円が認め

られる。

昭和50年10月1日 創設準備のため医学部に口腔基礎医学講座が設置される(11/1教授:笠原泰夫着任)。

昭和51年度概算で創設準備校として認められる。

昭和51年5月10日(文部大臣裁定により)歯学部創設準備室と同準備委員会が設置。

昭和51年9月16日 専任の準備室長を置く。中澤省三(広島大歯学部教授)。

昭和51年10月1日 病院長予定者の塩田重利教授が東京医科歯科大に転出。

昭和52年8月24日 大学設置審議会で設置の基本構想承認。

昭和52年(1977)10月1日 開学部 初代学部長:中澤省三発令。

【2講座設置】歯科理工学(中澤省三)、口腔生理学を流用し、口腔外科学講座設置(山下佐英)(歯学部創設準備室廃止、また、教授会の代わりに歯学部運営委員会設置(委員長:蟹江学長))

昭和53年3月23、24日 ラ・サール高校で初入学試験(最後の国立大 期、期制度下の試験)。

4月12日 初の入学式(入学定員80名)。

昭和53年4月1日【5講座体制】で発足。

歯科保存学(川越昌宜)、歯科矯正学(伊藤学而)の2講座新設。

口腔生理学(笠原泰夫)、口腔外科学講座(山下佐英)の2講座を医学部の口腔基礎医学講座と歯科口腔外科学講座から移設し設置。

昭和53年4月26日 第1回教授会 開催(歯学部運営委員会より引き継ぐ)。

昭和54年4月1日【10講座体制】(下記5講座新設)。

口腔解剖学講座(仙波輝彦), 口腔病理学講座(浦郷篤史), 口腔生化学講座(大工原恭), 歯科放射線学講座(野井倉武憲), 予防歯科学講座(井上昌一)

(医学部および附属病院内に分散して, 約70㎡のスペースで極めて不便)

昭和55年4月1日【15講座体制】(下記5講座新設)

口腔解剖学(2)(小片丘彦), 歯科薬理学(清水真一郎), 口腔細菌学(徳永純一), 歯科保存学(2)(末田武), 歯科補綴学(1)(自見忠)

昭和56年4月1日【17講座体制】(下記2講座新設)

歯科補綴学(2)(長岡英一), 口腔外科学(2)(三村保)(中澤省三教授, 学部長停年退官), 4月2日第二代学部長 徳永純一就任)

昭和57年4月【18講座体制】小児歯科学(小棕正)の1講座新設, 設置予定全講座の設置完了。

昭和58年9月15日 徳永学部長急逝(学部長事務取扱: 山下佐英就任)。

昭和59年3月25日 第一回卒業式(55名)。

昭和59年4月1日 大学院歯学研究科設置(定員18名)。

平成元年(1989)4月 入学定員60名に改訂。

平成9年4月1日【19講座体制】歯科基礎科学講座新設。(教養部改組に伴い教授1, 助教授1を配置)

平成9年(1997)11月 歯学部創立20周年式典。

平成15年(1993)4月1日 大学院医歯学総合研究科

(大学院重点化)で医学部医学科と歯学部の教員はほぼ全員大学院教員となった。それに伴い歯学部学生入学定員55名に改訂。

平成16年4月1日 国立大学法人に移行。

平成20年(2008)3月 歯学研究科:最後の修了者が修了すれば廃止予定。

本歯学部は, 30年の間, このような経過をたどって発展して参りましたが, 設立趣旨の歯科医師の不足の解消は現在ではほぼ目的を果たし, 新たに重点化した研究を中心とする大学院大学としての役割を担い, 南九州地区の歯科医学の教育, 研究, 診療の拠点として, 発展しつつあります。本学部の創立や発展に, 三県の歯科医師会の方々, 医学部, そのほか地域を挙げてのご貢献が如何に大きかったか, 目の当たりにする様です。改めて衷心より感謝申し上げますと同時に, 今後とも, 皆様にはご助言, ご指導を宜しくお願い申し上げます次第です。

歴代教授の方で, 鬼籍に入られた方は以下の方々です。いずれの方も創設時のご苦勞は如何ばかりであったでしょうか。その御苦勞をお慰み申し上げますとともに, 衷心よりの感謝とご冥福をお祈り申し上げます。

徳永純一(口腔細菌学), 自見 忠(歯科補綴学1), 浦郷篤史(口腔病理学), 野井倉武憲(歯科放射線学)